



Aichi Medical
University
Graduate School
of Nursing



愛知医科大学大学院 看護学研究科

修士課程





愛知医科大学大学院 看護学研究科(修士課程)について

愛知医科大学大学院看護学研究科は、高度専門職業人にふさわしい看護実践者として、これからの看護研究・教育・管理に貢献できる人材を育成するために、2004年4月に開設しました。

その後、2007年度に感染看護学領域において専門看護師(CNS)コースを開設し、2015年10月にはクリティカルケア看護学領域の高度実践看護師(診療看護師)コースにおいて、特定行為研修制度の研修機関として厚生労働省から指定(38行為21区分)を受けるなど着実に発展を遂げ、更なる看護学の発展に寄与する人材の育成を行っています。

研究科長あいさつ



Message from the Dean

研究科長
白鳥 さつき
Shiratori Satsuki

愛知医科大学大学院看護学研究科は、2004年の開設から13年が経過しました。これまでに送り出した98名の修了生たちは、本研究科で培った知識や技術をもって全国各地の保健医療機関・教育機関などでそれぞれ活躍しています。

近年の目まぐるしく変化する社会情勢は、保健・医療・福祉の世界に大きな影響を与え、特に医療における効率性の追求は医療システムそのものを変化させてきました。看護はこのような変動の中で、患者を支える中心的存在として活躍が期待され、多くの看護師が臨床・臨地の現場で課題や疑問に突き当たっているのではないかでしょうか。

近年、看護は学問体系が整ったことにより基礎教育の高等化(大学化)が実現しました。そして今日、専門職として社会に認知されるようになり、現場の看護師が大学院で学び、より専門的な能力を発揮し、活躍することができるようになりました。

本大学院での学びは、臨床・臨地で培った経験知を理論知として再構築することができ、また、新たな知を得るという新鮮な喜びや達成感を与えてくれるものです。本研究科では、夜間開講や長期履修制度など社会人が学びやすい教育環境を整えています。自らの可能性に挑戦し、看護の発展のために未知なる世界を切り開いてください。皆さまのご入学を心からお待ちしております。

教育理念

看護現象に根ざした人間存在の原理的・統合的・全人的理解を基盤として、学際的・国際的な視点から看護学を教授し、卓越した看護実践能力及び研究・教育・管理能力を持つ高度実践看護者を育成するとともに、研究・教育を通して看護学の発展に寄与する。



教育目標

- 1 高度な知識・技術と卓越した実践能力を持つ高度専門職業人を育成する。
- 2 看護の質向上に寄与する研究・教育・管理能力を持つ高度専門職業人を育成する。
- 3 国際的視野を持って、看護・看護学を探求しつづける人材を育成する。
- 4 看護学の学問的発展に寄与できる研究者・教育者を育成する。

学位

看護現象に根ざした人間存在の原理的・統合的・全人的理解を基盤として、学際的・国際的な視点に基づく卓越した看護実践能力及び研究・教育・管理能力を身に着け、高度専門職者として優れた能力ないし教育・研究活動に貢献できる能力を修得した者に修士(看護学)の学位を授与する。

募集人員

15名

国内外の大学との交流

国際性

米国のケース・ウェスタン・リザーブ大学との連携による講義・実習を計画し、質の高い看護実践ならびに国際性を培うカリキュラムを配置しています。特に、クリティカルケア看護学領域では、毎年、ケース・ウェスタン・リザーブ大学の教員を招聘して短期研修による講義・演習を開催しています。

国内における交流

感染看護学領域では、他の看護系大学大学院との協力などによる講義、演習を行っています。

大学院生、修了生からのメッセージ

Senior Message



第1学年
看護管理学領域
修士論文コース

水谷 順史さん

私は、日々の看護実践の中で、患者さんが、退院後に地域において生活を再開し、社会復帰をしていく上で様々な問題が発生していることに着目できていませんでした。社会的背景を含めた看護問題の明確化や解決策の考察を行う上で、看護学研究の視点を学ぶ必要性を感じて進学を決めました。

仕事との両立に関して不安なこともありましたが、上司や家族の応援を得てスタートラインに立つことができました。これからの貴重な2年間で、患者さんの適切な社会復帰に向けた看護管理、実践を学び、研究に取り組んでいきたいと思います。

Senior Message



第2学年
精神看護学領域
修士論文コース

角 由美子さん

私は、自らの看護実践の意味を看護職以外の人にも理解してもらえるよう説明ができるようになりたいと考え、大学院で勉強することになりました。入学後は講義や学生同士でのディスカッションを通して、事象を捉える力や文章をまとめる力が養われつつあると感じています。働きながら勉強しているので、学んだことをダイレクトに臨床にフィードバックすることができます。看護にまつわる事象は答えが見つからないこともあります。大学院で学んだ、考え続けることの面白さを同僚と共有することで発信力を高めていきたいと思っています。

OB Message



2016年度修了生
クリティカルケア看護学領域
高度実践看護師
(診療看護師)コース

高林 拓也さん

高校卒業前に特定行為を行う看護師が養成されるという情報を知り、患者に近い立場である看護師が医学的な医療も提供できたら患者にとって心強いのではないかと思い診療看護師を志し看護師資格を取得しました。そして、5年間の看護師経験を積んだ後、大学院に入學し2年間ひたすら学びを深め論文も完成させ、今年の春修了しました。大学院では解剖・生理学、薬理学を基礎から学び直し、より深いレベルで病態理解や治療を学ぶことができました。また、看護を改めて考える時間も多く看護を深めることができました。今後は医学的知識・技術を看護へつなげ患者の生活・医療の質向上に貢献していきたいです。

担当教員研究内容一覧

広域看護学分野

看護管理学

担当教員 白鳥さつき／伊藤真由美／出原弥和

山幡朗子／草野純子

- 職業ひばく防護に関する研究
- 看護の質に関する研究 患者満足度と職務満足度
- 看護師の感情労働および専門職意識
- 医療安全・リスクマネジメントに関する研究
- 組織理念と病院における本質サービスとの関連

母性看護学

担当教員 山本弘江

- 周産期メンタルヘルスに関する研究
- 子育て期の家族の心理社会的発達に関する研究
- 妊娠・出産包括支援における多職種連携に関する研究

小児看護学

担当教員 大須賀美智

- 障害のある子どもと家族に関する研究
- 在宅ケアを行う子どもと家族に関する研究
- 子どもと家族を主体とした看護に関する研究
- 障害のある人の防災対策に関する研究

慢性看護学

担当教員 高橋佳子／佐々木裕子

- 慢性の病いとともに生きる人と家族へ看護に関する研究
- 慢性疾患のセルフマネジメントの促進に関する研究
- 在宅終末期ケアに関する研究
- 在宅ケアにおける協働的パートナーシップに関する研究
- 訪問看護ステーションの災害対策に関する研究

高度実践看護学分野

感染看護学

担当教員 佐藤ゆか／長崎由紀子／篠田かおる
三善郁代

- 感染予防ケアに関する研究
- 感染防止教育プログラムに関する研究
- 感染症患者、易感染患者の看護ケアに関する研究
- 医療関連感染に関する研究
- 感染管理に関する研究
- 感染防止の地域連携に関する研究

精神看護学

担当教員 多喜田恵子／大谷恵

- 精神障がいをもつ当事者および家族への回復支援に関する研究
- 精神科以外の精神看護に関する研究
- 精神看護学教育に関する研究
- 看護職者のメンタルサポートに関する研究
- 看護におけるグループアプローチに関する研究

老年看護学

担当教員 八島妙子／荻野朋子

- 高齢者施設入所高齢者のケアに関する研究
- 高齢者の生活リズムに関する研究
- 老年看護学教育に関する研究
- 多職種による高齢者ケアに関する研究

地域看護学

担当教員 坂本真理子／若杉里実

- 地域看護活動に関する研究
- 地域看護教育に関する研究
- 保健師の人材育成に関する研究
- 地域ケアシステムに関する研究
- 在日外国人支援に関する研究
- 海外での地域看護活動に関する研究

クリティカルケア看護学

担当教員 小松徹／松月みどり／山中真／黒澤昌洋

- 周術期と自律神経活動・生体リズム・QOL
- 看護ケアと重症患者の生体リズム
- 診療看護師による全人的アプローチ
- せん妄の看護ケア





昼夜開講制・長期履修制度

医療等の現場で活躍している看護師・保健師の方々が退職や休職することなく学べるよう、配慮しています。

また、2015年度入学生からは職業を有している等の事情により、標準修業年限での履修が困難な学生を対象として、修業年限を超えて計画的に履修し、修了することができる「長期履修制度」を導入し、社会人の学びやすさを支援する体制を取っています。

社会人比率

2017年度入学者：12名中12名(100%)
[長期履修制度を利用する学生:3名]
2016年度入学者：13名中13名(100%)
[長期履修制度を利用する学生:4名]
2015年度入学者：11名中11名(100%)
[長期履修制度を利用する学生:3名]



研究指導体制

本研究科における指導体制は、少人数で個別的な指導を行うことを旨としています。このため、初学者であっても確実に研究のプロセスを学習しつつ、論文を作成できる体制を取っています。

研究環境

院生用研究室

大学院学生には、研究活動等で利用するための研究室を整備しています。24時間利用可能で、パソコン、机、保管庫・ロッカーを設置しています。

総合学術情報センター(図書館部門)

医学・看護学及び関連分野の学術情報を収集・管理し、教育・研究・診療を支援する専門図書館があります。図書約11万冊、視聴覚資料約5,000点、学術雑誌約4,000タイトルを所蔵しており、学内外を問わずどこからでも所蔵状況を確認することができます。利用にあたっては、医療情報の専門家である図書館員が検索のコツや利用上の相談にも気軽に応じます。平日は22時まで利用できることに加え、毎週土曜日及び一部日曜日も開館しており、利便性の向上に努めています。



総合学術情報センター(情報基盤部門)

先進的な設備や最新のICT技術を導入し、学習支援環境の整備に積極的に力を注いでいます。課題解決(表分析、レポート作成等)などで、利用時間内であれば自由にパソコンが利用でき、操作支援やトラブルの対応には専門スタッフがサポートします。



特別講義

看護の展望や看護の探究心、知的好奇心を育成するとともに、看護職者としての意識の改革、看護に対する关心への動機付けを狙いとして、年に数回開講しています。



専門看護師、特定行為研修の教育課程を設置

本研究科では修士論文コースに加え、次の教育課程を設置しています。

■ 専門看護師(CNS)コース【感染看護学領域】

感染看護学領域は、専門看護師教育機関として認定を受けており、修了者は公益社団法人日本看護協会が実施する専門看護師認定審査(感染症看護)の受験資格が得られます。

■ 診療看護師コース【クリティカルケア看護学領域】

診療看護師コースは、特定行為研修機関として指定を受けており、修了者は、特定行為38行為21区分すべての研修修了者として厚生労働省に報告します。また、日本NP教育大学院協議会のNP資格を取得することができます。

*本コースは昼間開講となります。

ACCESS GUIDE



■ 幹線道路から

- ① 東名・名神高速道路・名古屋インターから車で約15分、長久手インターから車で約10分
- ② 名古屋第二環状自動車道・本郷インターから車で約15分
- ③ 東海環状自動車道・せと赤津インターから車で約30分

■ 公共交通機関

名古屋駅から地下鉄東山線で「藤が丘」駅まで25分、地下鉄東山線「藤が丘」駅から名鉄バスで約15分

*詳細はホームページをご確認ください。

【お問い合わせ先】

愛知医科大学看護学部教学課大学院係

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1
TEL: 0561-62-3311(代表) <直通> TEL: 0561-61-1827 FAX: 0561-63-1093
E-mail: gakumu@aichi-med-u.ac.jp
URL: <http://www.aichi-med-u.ac.jp>